

BINDSシンポジウム2026

つながる力が切り拓く ライフサイエンス研究の未来

BINDS II 最後のシンポジウム、全56課題 5年間の成果を講演とポスターで発表します

2026
9.9(水) - 10(木)

参加費 **無料**
[事前登録制] ※通信費自己負担

ハイブリッド開催 よみうり大手町ホール 大・小ホール + WEB
東京都千代田区大手町1-7-1

DAY1 9.9(水) 12:30~18:35【開場12:00】

大ホール オープニング

主催者挨拶
来賓挨拶
生命科学・創薬研究支援基盤事業について

大ホール 成果事例の紹介

衆力功ありアカデミア創薬成功の要諦 反町 典子 [東京大学]
インシリコによるコロナ治療薬探索と今後の分子設計 広川 貴次 [筑波大学]
染色体工学技術を基盤としたヒト化動物による創薬研究 香月 康宏 [鳥取大学]
BSL3対応クライオ電顕による病原体観察 福原 秀雄 [北海道大学]

小ホール BINDS2成果報告会:ポスターセッション

大ホール 成果・連携事例の紹介

ナノクレイを用いた3D培養技術の構築と活用 辻川 和文 [大阪大学]
ユニット連携によるSBDDプラットフォームの構築 津本 浩平 [東京大学]
「ものづくり」で医療イノベーションを加速 高木 淳一 [大阪大学]
抗体の支援と社会実装 加藤 幸成 [東北大学]

DAY2 9.10(木) 10:00~17:30【開場9:30】

大ホール 各ユニットの成果発表 Part 1

生命科学と創薬を加速する構造解析支援 山本 雅貴 [理化学研究所]
BINDSのクライオ電顕による成果と将来 吉川 雅英 [東京大学]
高難度生体分子研究の支援と高度化 村田 武士 [千葉大学]
発現・機能解析ユニットのミッションと成果 木下 賢吾 [東北大学]

大ホール 各ユニットの成果発表 Part 2

創薬をつなぐモダリティ探索 岩淵 好治 [東北大学]
ヒット化合物創出ユニットにおける支援成果と今後の展望 前仲 勝美 [北海道大学]
生命科学・創薬研究のための先進インシリコ解析 富井 健太郎 [産業技術総合研究所]

小ホール BINDS2成果報告会:ポスターセッション

大ホール 各ユニットの成果発表 Part 3

薬効・安全性評価支援の成果と高度化 楠原 洋之 [東京大学]
CESOARによるマルチオミックス解析研究 由良 敬 [早稲田大学]
疾患モデル動物提供支援の成果と高度化 千葉 朋希 [浅原弘嗣 (代理) [東京科学大学]
創薬サイエンス研究支援拠点における成果 北崎 智幸 [大阪大学]
創薬機構・構造展開ユニットの支援と高度化 安田 公助 [東京大学]
舞台裏から見たBINDS サポート班の成果について 西山 真 [東京大学]

大ホール 若手の成果・連携事例の紹介

BINDS内若手連携で挑む虚血性網膜症創薬 山下 泰信 [大阪大学]

*プログラムは都合により変更になる場合がございます。最新のプログラムはAMED HPまたはBINDS HPからご確認ください

問合せ先 ▶ 20-ddlsg-16@amed.go.jp



参加申込はこちらから

参加申込締切

9/4(金) 正午
(定員到達次第受付終了)

会場参加 (定員400名) ▶

申込URL
https://krs.bz/amed_iyaku/m/bindssympo2026



WEB参加 (定員500名) ▶

申込URL
https://krs.bz/amed_iyaku/m/bindssympo2026_web



*小ホールで行うポスターセッションはオンラインでは、ご参加できません。

主催



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
創薬事業部 医薬品研究開発課

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル22F <https://www.amed.go.jp/>

BINDSシンポジウム 2026

「生命科学・創薬研究支援基盤事業(BINDS)」は、事業に参加する最先端の研究者が「外部研究者のみなさまの研究が進むようお手伝いする」事業です。令和4年度から始まり今年で5年目を迎え、研究支援基盤の整備と共用、最先端実験技術の提供などを通じてみなさまの研究を強力に支援しています。
 今回のシンポジウムは、BINDS事業の成果の集大成を2日間かけて講演とポスターセッションにより発表し、アカデミアが有する最先端技術基盤、拠点の特色を活かした連携、研究成果の実用化に向けた取り組みをご紹介します。
 これからのライフサイエンス/創薬研究を支える研究支援基盤の方向性や展開を考えるこの機会に、ぜひともご参加ください。

ハイブリッド開催
 よみうり大手町ホール 大・小ホール
 + WEB (Zoomによるオンライン配信)



会場案内

よみうり大手町ホール
 〒100-0004
 東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル

- 大手町駅 C3出口直結
- JR東京駅 丸の内北口徒歩約10分



DAY1 9.9 水 12:30~18:35【開場12:00】 ※プログラムは都合により変更になる場合がございます。

| | | |
|-------|-----------------------------------|-----------------------|
| 12:30 | 主催者挨拶・来賓挨拶 生命科学・創薬研究支援基盤事業について | AMED理事長・文部科学省 AMED |
|-------|-----------------------------------|-----------------------|

大ホール 成果事例の紹介

| | | | |
|--------|---------------------------|---|------------------------------|
| 13:15~ | 衆力功ありーアカデミア創業成功の要諦 | BINDSとの協創によるアカデミア創業の成功事例を通じ、「衆力功なり」の理念のもと、創薬支援基盤を活用したHit to Lead推進から企業導出に至るまでの課題克服の要諦を、自身の経験を交えて紹介する。 | 反町 典子 東京大学大学院理学系研究科 |
| 13:40~ | インシリコによるコロナ治療薬探索と今後の分子設計 | インシリコ技術による創薬支援事例としてSARS-CoV-2メインプロテアーゼを標的としたコロナ治療薬探索の成果と、高度化技術としてタンパク質構造とAI技術の融合による今後の創薬分子設計戦略について紹介する。 | 広川 貴次 筑波大学医学医療系 |
| 14:05~ | 染色体工学技術を基盤としたヒト化動物による創薬研究 | 医薬品開発の迅速化とヒトに対する安全性予測の向上を目指し、独自の染色体工学技術により、薬物動態ヒト化モデル動物、完全ヒト抗体産生動物、疾患モデル動物を活用した創薬研究の現状と展望を紹介する。 | 香月 康宏 鳥取大学染色体工学研究センター |
| 14:30~ | BSL3対応クライオ電顕による病原体観察 | ヒット化合物創出ユニットの高度化として北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所のP3管理区域に整備したクライオ電子顕微鏡の運用と、その成果について紹介する。 | 福原 秀雄 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 |

小ホール BINDS2成果報告会：ポスターセッション 各課題の成果報告 (前半15:05~15:50、後半15:50~16:35)

大ホール 成果・連携事例の紹介

| | | | |
|--------|--------------------------|---|------------------------|
| 16:50~ | ナノクレイを用いた3D培養技術の構築と活用 | ナノクレイを培地に低濃度で添加すると、癌細胞3次元(3D)スフェロイドが効率よく形成されることを発見した。BINDS支援により製品化にも繋がったこの技術の癌研究や創薬への活用が期待される。 | 辻川 和文 大阪大学薬学研究所 |
| 17:15~ | ユニット連携によるSBDDプラットフォームの構築 | アカデミア発の創薬シーズを公的支援事業および企業へ橋渡しする上で、リード創出を加速させることが重要と考えている。私たちはBINDSにおけるユニット間連携を強化することで、国内のアカデミアによるSBDDプラットフォームを構築することを目指している。 | 津本 浩平 東京大学大学院工学系研究科 |
| 17:40~ | 「ものづくり」で医療イノベーションを加速 | タンパク質は化学合成では作れないため、その「ものづくり」には様々なノウハウが必要となる。私たちは、ヒトやウイルスのタンパク質を高品質で素早くつくることにより、様々な医薬品の迅速開発に役立っている。 | 高木 淳一 大阪大学蛋白質研究所 |
| 18:05~ | 抗体の支援と社会実装 | 東北大学では、抗体に関するあらゆる支援を行っている。今回は、Mpoxに対する高感度抗体の迅速作製、抗体バンク・細胞バンクの紹介、高度化において開発した抗体の社会実装への流れについて紹介する。 | 加藤 幸成 東北大学大学院医学系研究科 |

DAY2 9.10 木 10:00~17:30【開場9:30】 ※プログラムは都合により変更になる場合がございます。

大ホール 各ユニットの成果発表 Part 1

| | | | |
|--------|----------------------|--|--------------------------|
| 10:00~ | 生命科学と創薬を加速する構造解析支援 | BINDSでは放射光、電顕、NMR等を統合した相関構造解析研究基盤を構築して、500件超の構造解析支援を実施してきた。生命科学や創薬に不可欠な本研究基盤の重要性と課題での実績を報告する。 | 山本 雅貴 理化学研究所放射光科学センター |
| 10:25~ | BINDSのクライオ電顕による成果と将来 | 構造解析ユニットのクライオ電子顕微鏡を運用する5つのグループが連携して、原子レベルから細胞レベルまで様々な構造が得られている。各班の成果を紹介するとともに、クライオ電顕の将来についてもお話しする。 | 吉川 雅英 東京大学大学院医学系研究科 |
| 10:45~ | 高難度タンパク質研究の支援と高度化 | 高難度タンパク質およびRNAを対象とした構造解析ユニットの支援と高度化の成果を紹介する。試料創製から構造解析までの支援基盤構築と技術高度化を通じて創出された支援成果について概説する。 | 村田 武士 千葉大学大学院理学研究科 |
| 11:05~ | 発現・機能解析ユニットのミッションと成果 | 発現・機能解析ユニットは、1細胞・空間オミックス、プロテオーム、エピゲノム解析など先端技術を擁する8班が連携し、分子から生体レベルの生命現象を包括的に解明・支援する。本発表では各班の成果と展望を概説する。 | 木下 賢吾 東北大学情報科学研究所 |

大ホール 各ユニットの成果発表 Part 2

| | | | |
|--------|----------------------------|---|------------------------|
| 11:45~ | 創薬をつなぐモダリティ探索 | アカデミア発シーズを創薬研究へつなぐ。分子設計・合成・標的探索・構造最適化支援を通じ、多様な分子の可能性を創薬へ橋渡しする取り組みを紹介する。 | 岩淵 好治 東北大学大学院薬学研究所 |
| 12:10~ | ヒット化合物創出ユニットにおける支援成果と今後の展望 | ヒット化合物創出ユニットは、化合物スクリーニングやライブラリー提供、AI創薬などを推進する各拠点が連携し、優れたヒット化合物の創出と育成を強力に支援している。さらに、クライオ電顕の導入による構造解析との連動強化も実現した。本発表では、これら最新の支援成果を概説し、今後の展望を紹介する。 | 前仲 勝実 北海道大学大学院薬学研究所 |
| 12:35~ | 生命科学・創薬研究のための先進インシリコ解析 | 分子シミュレーション、分子モデリング、バイオインフォマティクス、分子設計、FMO、AIなどの統合・融合による各班の解析技術の高度化と、それらを活用した生命科学・創薬研究支援の成果を概説する。 | 富井 健太郎 産業技術総合研究所 |

小ホール BINDS2成果報告会：ポスターセッション 各課題の成果報告 (前半14:00~14:45、後半14:45~15:30)

大ホール 各ユニットの成果発表 Part 3

| | | | |
|--------|---------------------------|--|------------------------------------|
| 15:45~ | 薬効・安全性評価支援の成果と高度化 | 薬効・安全性評価ユニットでは、動物個体における開発化合物の曝露評価を中心に支援を行うとともに、曝露・安全性評価に向けたin vitroモデル開発にも取り組んできた。本発表では成果と展望を概説する。 | 楠原 洋之 東京大学大学院薬学系研究科 |
| 15:56~ | CESOARIによるマルチオミックス解析研究 | 発現・機能解析とインシリコ解析の両ユニットの連携で結成された当該グループでは、各機関が独自にもつ測定解析技術を連結し、さまざまな研究課題の支援を実現してきた成果を紹介する。 | 由良 敬 早稲田大学理工学術院 |
| 16:07~ | 疾患モデル動物提供支援の成果と高度化 | 疾患モデル動物提供支援では生命科学研究および創薬基盤となるモデル動物の作成支援を行ってきた。本発表では支援成果とともに高度化研究についても紹介する。 | 千葉 朋希(浅原弘嗣 代理) 東京科学大学大学院医学総合研究科 |
| 16:18~ | 創薬サイエンス研究支援拠点における成果 | 大阪大学創薬サイエンス研究支援拠点では連携・融合ユニットとして多数かつ多様な支援を提供してきた。本シンポジウムでは当拠点の特徴及びそれらを活用した支援実績、支援成果事例などを紹介する。 | 北崎 智幸 大阪大学大学院薬学研究所 |
| 16:29~ | 創薬機構・構造展開ユニットの支援と高度化 | 当部署では、医薬品候補化合物の創出に向けて、企業創薬のノウハウを活かした支援や産学連携による高度化を行ってきた。本講演では、それらの事例の中から、いくつかのトピックを紹介する。 | 安田 公助 東京大学大学院薬学系研究科 |
| 16:45~ | 舞台裏から見たBINDS サポート班の成果について | 全国の研究者の研究を支えるBINDS事業。BINDSの窓口を担って、事業の分析を行うとともに、イベントやHP、広報を通じて、研究者と研究者を結び、事業を舞台裏で支えるサポート班の活動をお示しする。 | 西山 真 東京大学大学院農学生命科学研究科 |

大ホール 若手の成果・連携事例の紹介

| | | | |
|--------|-----------------------|---|----------------------|
| 16:55~ | BINDS内若手連携で挑む虚血性網膜症創薬 | BINDS内の若手研究者によるユニット間連携を基盤に、虚血性網膜症に対する新規低分子薬およびペプチド-薬物複合体の創製を進めている。本講演では、計算科学・生化学・合成化学・薬理評価を融合した創薬研究を紹介する。 | 山下 泰信 大阪大学産薬科学研究所 |
|--------|-----------------------|---|----------------------|